

「各種デジタルデータを活用したインプラント埋入シミュレーションの取り組みについて」

橘 勝一

近年、我々の歯科技工業界も DX 化が飛躍的に進みつつあります。

いつの時代にもどの業界においても不変のものと進化するものがあります。

歯科技工士も、双方を効率的に融合させて患者に安心安全な補綴物を提供することが責務であると考えます。

今回は、歯科医師の指示のもとデジタルデータのスーパーインポーズを用いて診断から最終補綴装置装着までの取り組み方をお話しさせていただきたいと思います。

「デンチャーラボの現状と将来の展望」

黒松慎司

「歯科技工士の高齢化」「物価の高騰」が深刻化する昨今、歯科技工所の在り方を一から見直さなければいけない時期にきている。

2005年にジルコニアの国内許可で浸透しはじめたデジタル技術の波は、2014年にCAD/CAM冠が保険適応されることによりその勢いは一気に加速を見せるものの、デンチャーテクニシャンにとってはその波をただ傍観することしかできない苦しい20年だった。

しかし、中小規模のラボにおいても低コストで導入可能な3Dプリンターを応用できるようになって以降、「自動化」などの効率性を主体とするそれまでの取り組みも重なり、義歯の作製工程は劇的な変化を遂げつつあるが、「精度」や「物性」面でまだまだ課題が多い。

長年の経験に裏打ちされた確かな技術を持つベテラン技工士の一斉リタイヤが危惧されている。今こそ「最新のデジタル技術」に「職人によるデンチャーテクニク」を融合・反映できる最後の機会かもしれない。

「インプラント補綴を長期安定する為には ～インプラント埋入ポジションと補綴形態の考察～」

石川幸宏

インプラント治療は口腔内の審美的および機能的回復を図る有効な手段として重要な役割を担っている。現代のインプラントは材質などの進化により、インテグレーションが容易になったことで治療オプションとして多く取り入れている。近年、デジタルツールの普及によって正確な埋入ができるようになり最終的な補綴形態から導かれた埋入が可能になった。その一方で経年的な補綴学的不具合として上部構造の破損やスクリューの緩み、生物学的不具合としてインプラント周囲炎による問題がある。インプラントが長期的に安定する為にはどうすれば良いかというところを考察したい。